

## 2019年度 『光寿会事業計画』

### ① 経営感覚を頭に置きながら福祉的心のケアを目指します！

昨年度は、光寿苑とひなたぼっこ共に赤字決算となりました。その原因として光寿苑は退居者と入院者の増加、ひなたぼっこは利用者の減員が大きく影響しました。この点を頭に置きつつ、福祉的心のケアに当たります。

**【利用される方がいる = 私たちの暮しが支えられる効果】**

### ② テーマや具体的取組みを自分達で考え都度検証します！

4月、新体制でスタートを切るにあたり、自分達で改めてテーマと目標を考えだします。それを基に、実際の具体的取組み・行動がどうだったかを各部署や各ユニットで都度検証します。お年寄り・職員個人・チームとして…。

**【自分達の行動がテーマに即しているか確認する効果】**

### ③ 『個浴』の実践で見えてきたものを探求します！

お年寄りの入浴に対する気持ちに配慮し、考え方と技術を再検証しながら、個浴ケア充実に取り組んできました。身体的負荷が問われる中、改めて技術指導を取り入れながら、お年寄りと職員の互いに安楽な入浴を目指します。

**【お年寄り目線の心地よい入浴を実現～継続する効果】**

### ④ ヘルシーな職場作りに向け計画的有給を付与します！

国の『働き方改革』の一環として有給休暇年間5日間の計画的付与が施行されます。光寿会でも働くすべての職員の創造性・生産性のヘルシーを支えるため、計画的に有給休暇を取得できる体制を創ります。(突発的有給以外)

**【職場環境にフレッシュな雰囲気を与える効果】**

### ⑤ 地域還元型施設『遊古林〔ゆうこりん〕』を展開します！

町外出身の西和賀高校生が安心安全に住み、この町を人を好きになってもらえるよう下宿事業に力を入れます。生活困窮者等への『社会的包摂事業』を進めます。文化発信の場所を目指し、『小さい本屋』を隣接展開します。

**【地域ニーズに対応しながら社会の福祉に取り組む効果】**

**※ 以上5点を継続して実施しながら、一步一步進んで参ります。**

## あいさつの心得

光寿会の基本姿勢 … 『サービスとは、挨拶そのものに尽きる』

- ◎挨拶の「挨」は、  
様々ないきさつを投げ捨てて、わが胸を開くことである。  
(相手の胸を開かせることではない!)
- ◎挨拶の「拶」は、  
「あなたが居てくれることが私の幸せです……」と、  
わが胸に相手を抱きしめることである。

### 3つの基本姿勢

- ① 上司・同僚の話は、身を向けて（ヘソを向けて）、耳を澄まして聴く。  
お年寄りを敬い、ニーズを知る訓練の基本。
- ② 居室に入るときは、一瞬立ち止まって、  
「彼は今何を求め、何に悩んでいるだろうか」と黙想してから入る。  
心の中に余裕を持つ基本。[他のお年寄りにも声掛けを忘れない事]
- ③ お年寄りとの会話は、ひざを折って、目の高さを同じにして話す。  
お年寄りと、介護者が平等の立場で話し合うための基本。  
特に、相手が興奮状態などのときの会話の基本。

★ 視線は適度に合わせる必要があります。私が全く視線を合わせないと、相手は「冷たさ・無視されている・無関心」を感じます。逆に、視界に入り込んで視線を合せ過ぎると「圧迫感」が生じます。適当に視線を合わせたり外したりすることが必要になってきます。

★ 要するに、24時間365日の認知症ではないですし、いつも興奮している訳でもありません。視界から外れて欲しい時だってあるものです。

⇒ そのような際の上質なコミュニケーション法としては、『縁側効果』（三好春樹氏）があります。横に座って、同じ景色（山、桜、お天気等々）を共有しながら、時折、視線を合わせる。そして、共有している景色をきっかけとした言葉を発してみる。これが程よく、よい印象や気分が残りやすいのです。

★ 最後に、関わるすべての人をつなぐことのできるコミュニケーションの最大の表現力は、『笑顔』です。人の習慣は、一般的な人で、21日間同じことを信念をもって続けていけば、その人のものに成るとされています。  
心から笑顔で過ごせる習慣を心がけ、続けてみましょう。